

週日の説教

金 大烈 神父 2010年7月14日(水)

《心配する事は何も無い》

主の平和

さあ、面白い話をしますので少し緊張して下さい。あるおじいさんが、毎朝テレビでの「健康番組」を楽しんでいました。ある日も同じように、おじいさんはその健康についての番組を見ていましたが、急に顔が暗くなって深刻になっているのです。その様子を見ていたおばあさんが(奥さんが)「どうしてあなたはそんなに暗い顔をしているの？」と尋ね「ほら、今ね、あのお医者さんが話している内容と、私が全く同じ症状を持っているので、もしかしたら私は同じ病気にかかっているかも知れない。お腹も痛いし、食欲もないし、寝付きも悪い。」と言いながら本当に苦しい暗い表情を見せていました。その話を聞いていたおばあさんが「本当にあなたはこの頃おかしくなりましたよ」と言って話し合っているうちに番組が終わりになって、そのアナウンサーが「今日は子宮癌についてのお話でした」と言うわけ。(皆の反応が遅く、司祭が「これは笑える話なのですが、すみません!」と言って、皆が笑った)

さあ、私が感動的に読んだ本があるのですが、その本には、このように書いてあります。私達が心配してはいけないところが二つあります。「一つはどんなに頑張っても自分の力で出来ないものは心配する必要がない。」心配しても何の変わりもありません。もう一つは、「自分が出来る事にも心配してはいけない。」自分の力で出来るものならば直ぐに動いて何とかすればもっと大きい実りを体験する。結局“心配する事は何も無い”という事ですよ。自分の力で出来ない事をあまり心配しても変わる事はないし、自分の力で出来る事はやればいいし、しかし私達はどちらでも心配しますよね。そうでしょう。私も心配します。皆様の事をいつも心配していますよ。(笑い)

さあ、今日の福音で(マタイ 11:25-27)「賢くて知恵ある者にはあなたの御旨を隠して、本当に幼子のような者にああなたの御旨を現した。これは素晴らしい事です。」と言いながらイエス様が御父を褒め称えましたね。ここで幼子のような人々とは誰の事でしょうか。この聖書の箇所を読んで見ますと、実際にこれはご自分が派遣しようとする弟子達、幼子のようになる事を分かっていない弟子達の事を言っていることです。彼らは社会的な身分を持っている人達ではなかったし、知恵ある者達と言われたわけではないし、仲間同士でもすぐ怒ったり喧嘩したりする姿を見せていた弟子達の事を見ながらイエス様がおっしゃったわけです。

幼子のような者と言われるその存在は、何よりも持たれる、頼る存在です。という事は自分の力によって何かをしようとする態度ではなく、頼られる存在の旨に従おうとする存在です。その為には自分達が持っているものの何かを捨てなければならない事になります。

結果的に弟子達が見せたのはイエス様に100パーセント頼った事です。頼った事によって、結局

イエス様は天国のカギさえ預けたわけです。私達も信仰の生活をしながらも、毎日色々な心配の中で生きています。しかし、心配する以前に「私がこのように心配していてもあなたの内にいる事を信じます。あなたへ頼ります」という信仰を毎日、毎瞬間意識して下さい。それが出来れば色々な心配事があっても充分に乗り越えられると思います。

最近、私が毎日同じ内容を申し上げますよね。“大きな声で1日5回笑いましょう”と。“心配しないで下さい”“恐れる事はありません”そういう事は皆同じ線の上で考えてみましょう。

ありがとうございました。